

2021年6月24日(木)

旧東海道ブラ歩き(5) 戸塚—辻堂

今日は朝 9 時過ぎに家内と二人で出て前回の終了場所である戸塚まで横須賀線で行き、辻堂まで歩いて 18 時前に帰宅。歩数は 3 万歩弱であった。

戸塚で下車して前回終了地点(戸塚駅の進行方向右側)まで戻り、そこから再度線路を横切って戸塚駅の反対側に回るといふ遠回りをしたので、時間のロスをした。駅には 10 時 7 分頃着いたが、本格的に歩き出したのは 10 時半過ぎだった。

しばらく歩いて富塚八幡宮に着く。写真の通り見上げるような急な階段で、最初から無理をして足を痛めては元も子もないので下から見上げるだけとした(写真 1)。ここには石段のすぐ左に芭蕉の句碑があったのでそれは写真に収めた。句碑には「鎌倉を生きて出にけむ初松魚」とある(写真 2)。案内書によると江戸っ子に珍重された初ガツオが鎌倉に水揚げされ、海水とともに江戸に運ばれていく情景を詠った句とあった。東海道を歩いてみて芭蕉の句と広重の絵がどこでも出てくるのに感心したが、それと共に当時鎌倉でも鰹が獲れたのかと家内とひとしきり昔話に及んだ。

戸塚から遊行寺の坂を下って辻堂までは第三京浜も横浜新道も、勿論東名高速もなかった時代に親父の車で毎週のように箱根に行っていたことがあり、その時に走った道であるので懐かしい感じがする(この区間は藤沢宿など一部を除いて旧東海道と現在の国道 1 号線は同じである)。さらに歩みを続けると今度は道の左側に、お軽・勘平戸塚山中道行の碑があったので、これも写真に収めた(写真 3)。仮名手本忠臣蔵の舞台となったお軽と勘平の戸塚山中の道行は歌舞伎などで有名とのことだが、小生は歌舞伎は滅多に見ないので、その情景が浮かんでこない。

ここから少し歩くと愈々原宿の交差点である。今や立体交差になっている。随分昔自分が中学生だった頃、このすぐ側の病院に入院中の祖母をよく見舞いに訪れたことがあるので交差点を右折した先を見ると今でも病院がある。独立行政法人 国立病院機構横浜医療センターと書いてある。名前は変わっているが、間違いなくこの病院である。原宿まで来れば遊行寺の坂はもうすぐと思ったが歩けど歩けどなかなか着かない。時間も 12 時を過ぎてお腹がすいてくる。と思って見ていると鎌倉釜飯という一寸良さそうな店があったので躊躇せずに入る。味はまあまあで、この後気の利いた食事場所はどこにもなかったので、これは大変良い選択であった。

13 時前にここを出て 10 分も歩かないうちに 1325 年開祖の古刹遊行寺に着いた。流石に堂々たるお寺である。ここは子供の頃 4 月のお釈迦様の誕生日の頃よく花見に連れてこら

れた場所である。本当に久しぶりという感じがする。国道に面した入り口から入ったが実はこれは正門ではない。藤沢宿から本堂に真っ直ぐ通じている一本道（いろは坂）が参拝の道だ。この両側の樹木は桜で春は桜のトンネルになる。

遊行寺を堪能して坂を下り旧東海道を右折するとそこからは藤沢宿だ。丁度そこに「ふじさわ宿交流館」があったのでそこに入って展示物を見る。江戸時代の藤沢宿が模型で再現されている。なかなか面白い。またそこには藤沢宿に関する色々なパンフレットを置いてあるのでそれを頂戴して藤沢については全てこれに従った。また、案内人との交流も面白かったし参考になった。今でも街道沿いにはみつはし園茶舗とか内田商店の建物が（修理はしたかも知れないが）そのまま残っている。更に進むと義経の首洗い井戸がある。奥州で自害した義経の首を首実検のため鎌倉に運び、実検後海に流したところ川を遡ってこの近隣の住民に拾われ、ここで丁寧に洗われたと言うことのように、義経伝説は日本にいくつあるのだろうか。

この後小田急江ノ島線に架かる陸橋を越え更に歩き続ける。勿論見るべきものはある程度あるが疲れてきており、とにかく前に進む。この辺りで16時を回り、今日は辻堂までと決めた。途中 Mercian のワイン醸造所があったが、試飲の場所はなかったので素通りしつつ、辻堂に通じる道を探す。途中少し迷ったが東海道を左折して15分くらい歩いたところで漸く駅に着く。驚いたことには駅の直前に滅茶苦茶に大きな建物があり、正にカナダの大型ショッピングセンターのようにカフェや食堂、衣料品など洒落た店が何百軒と入っている。大森の田舎から突然大都会に出てきたような気がする。家内も肝を潰している。ここで Pancake 専門店に入ってコーヒーとレモンのパンケーキを食べ、16時58分辻堂発の東海道線に乗り、途中戸塚で横須賀線に乗り換えて帰宅した。二人とも足がやや痛く、立ち上がってもすぐにスイスイと歩き始めるわけには行かないが、これにめげずに次回は辻堂から平塚或いは大磯宿辺りを目指そうということにした。また、早くも箱根をどうやって越えようか（途中どこに泊まるか）など、とらぬ狸の皮算用をした次第である。（写真次頁）



写真1 富塚八幡宮の石段



写真2 松尾芭蕉の碑 鎌倉を生きて出にけむ初松魚



写真3 お軽勘平戸塚山中道中の碑